

4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
6. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,500円、英文は6,500円、超過頁は1頁につき7,000円、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円、6頁以上は1頁毎に10,000円を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
7. 別冊：実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編集後記

再び SIU の問題について述べたい

今回 SIU の BOC (理事会に相当する) が2000年の総会開催地に New Dehli から Singapore に変更したことに対する、Bapat 教授をはじめとするインド泌尿器科学会の会員の怒りは相当はげしい。その気持ちは分からないでもないが、SIU が依頼したコンベンション関係の専門家である Mr. Polak の報告では、学会場、展示場、ホテル、交通など、とても国際学会が開かれるような状況ではないということであった。かつて Sydney の SIU のときに、学会誘致のためにインドが宣伝したものはひどくかけ離れた、ひどいものであることもはっきりした。その上、物価が全て高いということで、BOC はとてもこのような状況下では総会を成功させることは不可能である、そればかりではない、SIU の財政状態をさらに悪化させることになるかと判断したわけである。

21世紀に SIU が健全な発展を遂げるためには、Singapore での総会を成功させることが必要である。そのためには SIU の日本会員が一人でも多く Singapore 総会に参加するべきであると思う。



阪神タイガースが絶好調の時に、「医事新報」の随筆で「ひょっとしたらタイガースは今年優勝するかもしれない。少なくとも3年以内には優勝する」と書いた。それが最近はこの体たらくである。時々、随筆を読んだ方から冷やかされ悔しい思いをしている。でも今年は無理としても、3年後にはと本気で思っております

(吉田 修)